

## 第2回 摂津市立小中学校通学区域等審議会（PTA・青少年指導員）議事要旨

日時：令和4年9月30日（金）19:00～20:30

場所：新鳥飼公民館

### ■ 出席者

- |         |       |                           |
|---------|-------|---------------------------|
| (1) 委員  | 池川 亜耶 | 鳥飼小学校PTA                  |
|         | 文字 鈴香 | 鳥飼北小学校PTA 欠席              |
|         | 橋本 祥代 | 鳥飼西学校PTA 欠席               |
|         | 林 沙也加 | 鳥飼東小学校PTA                 |
|         | 村木 一郎 | 第二中学校区青少年指導員              |
|         | 堤 薫   | 第五中学校区青少年指導員 欠席 ※代理参加 原田氏 |
| (2) 事務局 | 河平 浩一 | 摂津市教育委員会 教育総務部参事兼学校教育課長   |
|         | 藤原 崇裕 | 摂津市教育委員会 教育政策課長代理         |
|         | 井上 智之 | 摂津市教育委員会 教育政策課主幹兼総務係長     |
|         | 長島 秀樹 | 摂津市教育委員会 教育政策課主事          |

### ■ 内容

1. “鳥飼地域における学校規模適正化について” 資料説明
2. 意見交換

### ■ 配布資料

(資料1) 鳥飼地域における学校規模適正化について

#### 1. “鳥飼地域における学校規模適正化について” 資料説明

事務局より資料1説明

#### 2. 意見交換

事務局： 本日は分科会での開催ということで、より深く率直な意見交換ができればと考える。

委員： 統合を行った結果、通学距離が長くなると登下校中に犯罪や事故に巻き込まれる危険性が増えることが不安である。スクールバスの導入や中学生の自転車通学を認める等、通学に関する何らかの対策があれば保護者からの賛同を得やすいと思う。青少年指導員からはセッピー号をスクールバスとして運用してはどうかという提案もある。

事務局： スクールバスの導入については、目的地によっても変わるが、対象をどうするのか、定時制にするのか、バスの大きさはどうするのか、費用負担は誰がするのか等、検討事項は多々ある。

委員： 娘からは、毎年人間関係を新たに作る必要がないため、小規模校について肯定的な意見が出ている。しかし親の立場から考えると子どもには幼少期からクラス替え等で人間関係形成の練習を行ってほしい。また、学校から特定の友達とだけでなく、全員と遊ぶように指導が入ることがある。それが児童にとっても保護者にとってもストレスになっている。そのため適正化については賛成である。

委員： 小規模校は和気あいあいとした雰囲気が作れるため良さもあると思うが、運動会でクラス対抗での競技ができない等デメリットが大きいと思う。統合については賛成であるが、伝統ある鳥飼小学校の名前は残してほしい。

委員： 知り合いに小規模校では希望する部活動がなく、祖父の家に住民票を移して、別の中学校に通っている方がいる。小規模校では十分な教育環境が整わないため、適正化については賛成である。

事務局： 今までの1中2小学校の形を崩すことについてはどのようにお考えかお聞きしたい。

委員： 6年間クラス替えがないことは可哀想なため、統合には賛成である。1中2小学校の形にもこだわる必要はないと考える。一方で摂津市は昼間人口が多いため魅力的な取組を行えば、人口が増える余地はある。鳥飼まちづくりランドデザインと連動し、鳥飼地区の人口を増やす方向でも検討をしてほしい。仮に将来マンション等が建設され、人口が大幅に増加した場合、統合後の学校が今度は人数が多くなりすぎてしまう可能性もあるのではないかと。

事務局： 将来推計では、令和9年には鳥飼東小学校の児童数が1桁になり、全国的に人口が減少している中、5年後に劇的に増加させることは難しい。平成14年5月の「市立小中学校の適正規模及び適正配置並びに市立幼稚園の適正配置等について（答申）」では、鳥飼小学校と鳥飼東小学校の統合について、当時は人口増加の期待もあり保留となった。しかし、現在では鳥飼小校区、鳥飼東小校区ともに人口は大幅に減少し、小規模校化が進んでいる状況である。

委員： 教育委員会として校区再編や統合等、適正配置についてはどのように考えているのか。

- 事務局： 結論ありきで考えてはいない。今回の審議会では、資料やデータ、課題等を全て開示し、鳥飼地域の住民の方々のご意見をお伺いできればと考えている。
- 委員： 通学距離や学校内のことは保護者の立場からではわからない部分が多い。実際に現場で勤務されている教員の方々のご意見をいただきたい。
- 事務局： 小規模校の教員における課題は多くあり、1学年1クラスでは教員同士の切磋琢磨が生まれにくいことが指摘されている。また、授業構成の考案や準備等を1人で行うことに不安を感じる声もある。さらに、運動会や修学旅行等、学校規模に関わらず取り組むべき業務に対する、教員1人あたりの負担が大きくなることも、労働環境改善の妨げになっている。
- 委員： 鳥飼東小学校の元教員から、小規模校では教員同士のフォローやケアができない点で負担になっていたと聞いたことがある。小規模校に対して教員からネガティブな意見が出ているのであれば、それを最優先に考慮すべきだと考える。児童のためにも、教員のためにも、1学年2クラス以上は確保してあげたい。
- 委員： 教員の労働環境を改善するためにも適正化は必要と考える。小中一貫校や特認校制度を取り入れて独自のカリキュラムを持つ学校をつくり、他地域からの人を呼び込むことも一つの案である。
- 事務局： 小中一貫校については、現在の学校用地では必要面積が確保できない等の課題があり、中長期的な工程が必要となる。特認校制度については、教育の平等性と公平性の観点から文科省の定めるカリキュラムがあるため、現時点では検討課題が多々ある。
- 委員： 仮に統合を進めるとなった場合のスケジュール感を教えてほしい。
- 事務局： 味舌小と味舌東小、三宅小と柳田小の統廃合を行った際は、平成14年5月に審議会から答申をいただき、平成17年9月に「摂津市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定、平成20年に統合開始であった。ただし、当時は幼稚園の統合等もあり、時間を要していた。それを踏まえると今回は、令和4年に本審議会答申をいただき、令和5年に計画を策定と仮定すると、令和6～7年で調整を進めながら、最短で令和8年開始となる。令和9年で児童数1桁の学年が出てくるため、早急に進めることが望ましいと考える。

事務局： 皆様のご意見を伺うと、1 学年 2 学級以上の確保は必須であり、適正配置は進めるということが共通認識であった。次回の第 3 回審議会では、集約したステークホルダーの意見や現場教員の意見等を共有していただき、より深く議論を進めていきたい。